



Dell シンクライアント検証機 Quick Start Guide Wyse ThinOS 機編

本ドキュメントでは、Dell より貸出させていただいた、シンクライアント機(Wyse ThinOS モデル) をご利用いただくための基本的な概念と操作方法について説明しています。

概要

Dell Wyse Thin OS(以下 WTOS)シンクライアントは、ICA/RDP/PCoIP 画面転送プロトコルに特化した専用端末です。

WTOS は、Citrix/Microsoft/VMWare 仮想デスクトップソリューションに最適なシンクライアントとして利用することができます。

本スタートアップガイドでは、WTOS シンクライアントを導入するにあたり、初期設定/テスト/デモ等を短時間で構成するためのマニュアルです。**注**

注意: 実際の運用にあっては、本説明のノウハウを元に、最適な設定を実施する必要があります。本説明は、初回利用時や効果的なデモ/テスト環境を短時間で構成するために用いることができます。実運用に向けた高度な設定や詳細仕様に関しては、「Dell Wyse ThinOS Administrator's Guide」や「Dell Wyse ThinOS INI Reference Guide」をご参照ください。

テスト環境の構成例

WTOS シンクライアントの企業導入は、FTP サーバを用いた集中管理が効果的です。これは、シンクライアントのローカル設定をまったく行う必要がないため、数千台~数万台以上の管理が容易に集中管理することができます。ただし、テスト/デモ環境において、FTP サーバを用意できない場合でも、ローカルの必要な設定を実施することで、効果的なテスト/デモを実施することができます。

本説明では、下記の設定方法に関して解説します。

1. WTOS シンクライアントのローカル設定を用いた構成概要
2. Wyse Thin OS ネットワーク設定
3. WTOS 上のタイムゾーンと時刻サーバの設定
4. コネクションブローカーへの接続
 - 4-1. Citrix XenDesktop/XenApp の場合
 - 4-2. VMware Horizon View の場合
 - 4-3. Microsoft Remote Desktop Service の場合
5. 端末の初期化

1. WTOS シンクライアントのローカル設定を用いた構成概要

図 1 に示すように、WTOS シンクライアントから、Citrix/Microsoft/VMWare 仮想デスクトップソリューション上のデスクトップ(アプリケーション)へ接続するための環境を構築します。ネットワーク環境上に DHCP サーバ等が存在しない場合、WTOS シンクライアント端末のローカル設定を実施する必要があります。ここでは、初回利用時の IP アドレス設定や コネクションブローカー (コネクションサーバ) 設定を解説します。



図 1 仮想デスクトップインフラストラクチャ(VDI)環境への接続イメージ

ハードウェア設定

WTOS シンクライアントの準備 (電源、ネットワーク接続) を行い、物理的に Citrix/Microsoft/VMWare のコネクションブローカーとのネットワーク接続が可能な構成を構築します。

- 電源アダプタ/電源ケーブル接続
- イーサネット接続
- USB キーボード/マウス接続

ソフトウェア設定 (WTOS 上)

2. Wyse Thin OS ネットワーク設定

イーサネットによりネットワーク接続した WTOS を初回起動すると、DHCP/BOOTP による自動 IP アドレス取得の仕組み (デフォルト設定) により、IP アドレスの取得を試みます。DHCP サーバによる IP アドレス割り当てを実施していない環境においては、図 2 に示すところで止まり、DHCP の IP アドレス取得プロセスのタイムアウトメッセージ (DHCP が失敗しました、“ネットワーク設定”を確認してください) が WTOS のイベントログ上に記録されます。**注**

注意: DHCP クライアントによる IP アドレスの取得を試みるため、DHCP サーバが存在しない場合、

IP アドレス取得処理がタイムアウトするまでに、数十秒かかります。このため、次に示すネットワーク構成を実施します。

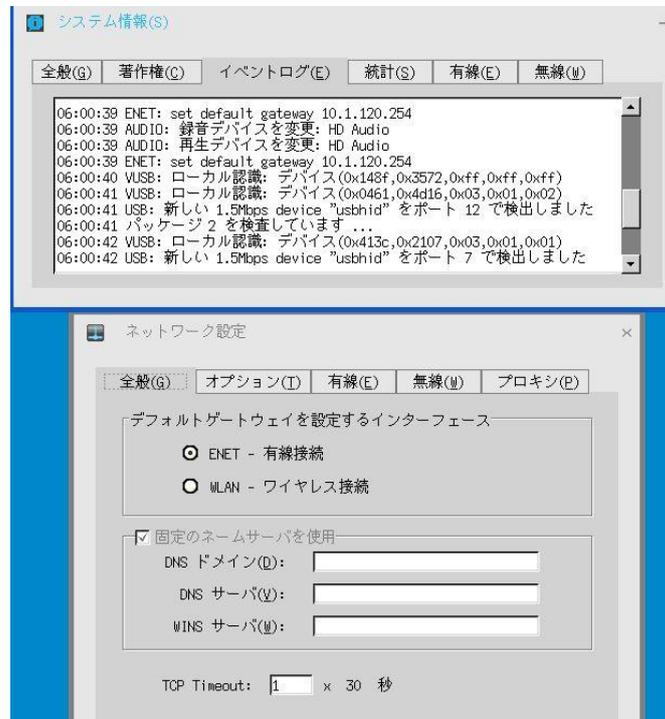


図 2 DHCP による IP アドレスの取得ログ (イベントログ)

WTOS のデスクトップより、ローカルで静的 IP アドレスを設定します (デフォルト: 「DHCP/BOOTP によりアドレスを割り当てる(H)」)。WTOS デスクトップより、[デスクトップ]→[システム情報(S)]→[ネットワーク設定(N)]を選択します (図 3 参照)。

補足: 図 2 に示す DHCP クライアントによる IP アドレス取得のタイムアウトを待つことで、「ネットワーク設定」ダイアログ(図 2 の下の画面)が出力されます。この場合、タイムアウトまで数十秒待つ必要があるため、ここでは、WTOS のネットワーク設定を選択し、静的 IP アドレスを設定します。

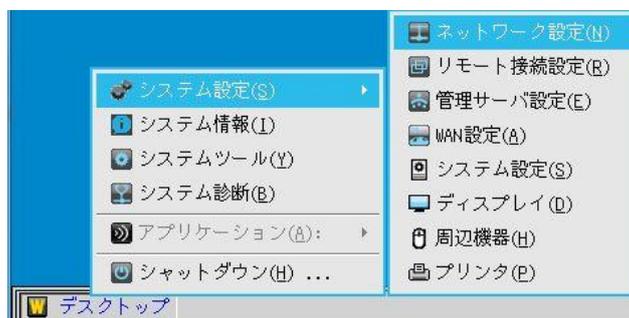


図 3 WTOS のネットワーク設定

「ネットワーク設定」ダイアログの「全般(G)」-「有線(E)」タブの「プロパティ」において、「静的 IP アドレスを指定する(A)」を選択します。WTOS のローカル IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイをそれぞれ、環境に合わせて設定し、[OK]ボタンをクリックします (図 4 参照)。

補足： ネットワーク環境上で名前解決が必要な環境の場合、「ネットワーク設定」ダイアログの「全般 (G)」タブにある、「DNS ドメイン(D)」、「DNS サーバ (V) 」もしくは、「WINS サーバ(W)」上で必要な名前解決サーバの IP アドレスを設定します。(図 5 参照)

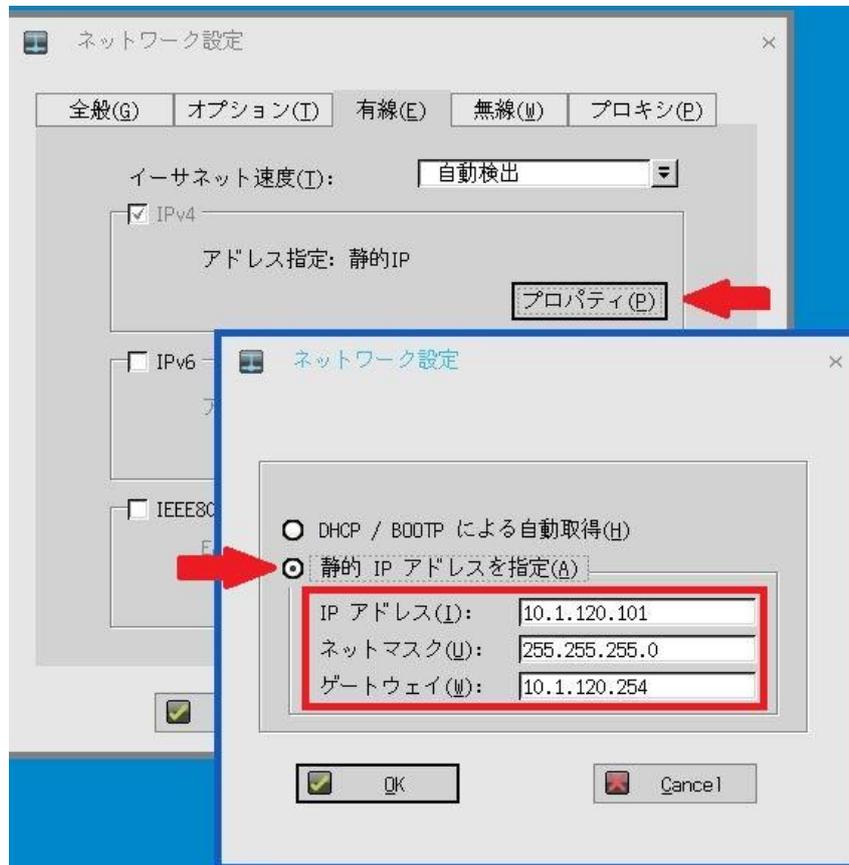


図 4 WTOS ローカルネットワーク設定

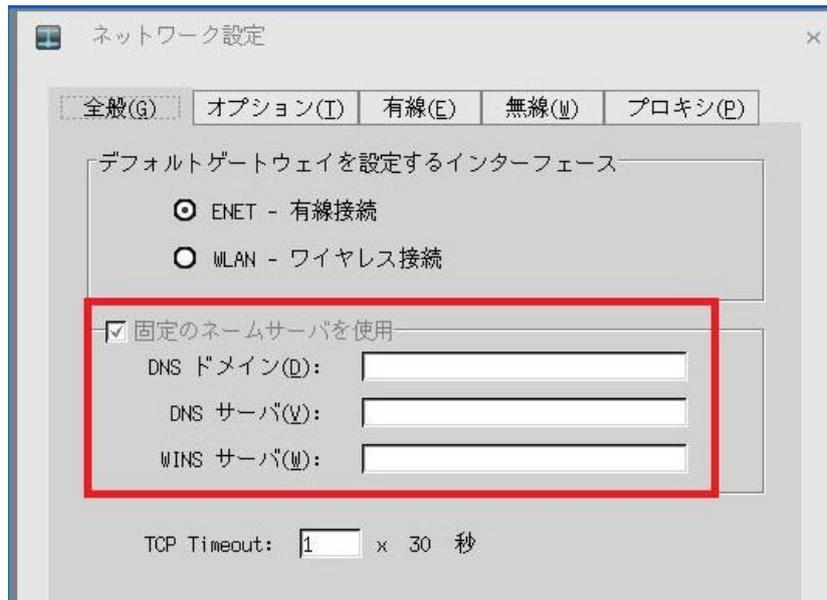


図 5 名前解決サーバの設定

3. WTOS 上のタイムゾーンと時刻サーバの設定

仮想デスクトップソリューションの接続サーバと接続するための WTOS 上でタイムゾーンとタイムサーバを設定します。WTOS デスクトップより、[デスクトップ]→[システム情報(S)]→[システム設定(S)]を選択します（図 6 参照）。



図 6 WTOS のシステム設定

図 7 のように「時間/日付(D)」タブにある「タイムゾーン」と時刻サーバを設定します。



図 7 WTOS 上のタイムゾーンと時刻サーバ設定

4. コネクションブローカーへの接続

WTOS を起動後（ネットワーク設定完了後）、WTOS ローカルデスクトップ上には、図 5 に示すように、「Default ICA」アイコンと「Default RDP」アイコンが表示されます。また、タスクマネージャ上に「接続マネージャ」が最小化されています。

このステップガイドでは「リモート接続設定」を変更し、Citrix/Microsoft/VMWare のコネクションブローカーへの接続設定 を構成していきます。（図 8 参照）



図 8 コネクションブローカー設定

4-1.Citrix XenDesktop/XenApp の場合

XenDesktop/XenApp への接続設定を実施するため、図 8 のように「リモート接続設定(R)」を選択し、リモート接続設定のダイアログを立ち上げます。

XenDesktop/XenApp への接続するため、StoreFront を利用している場合は図 9 のように「ブローカー選択(T)」メニューの下にある「StoreFront UIの有効化(E)」を選択してください。

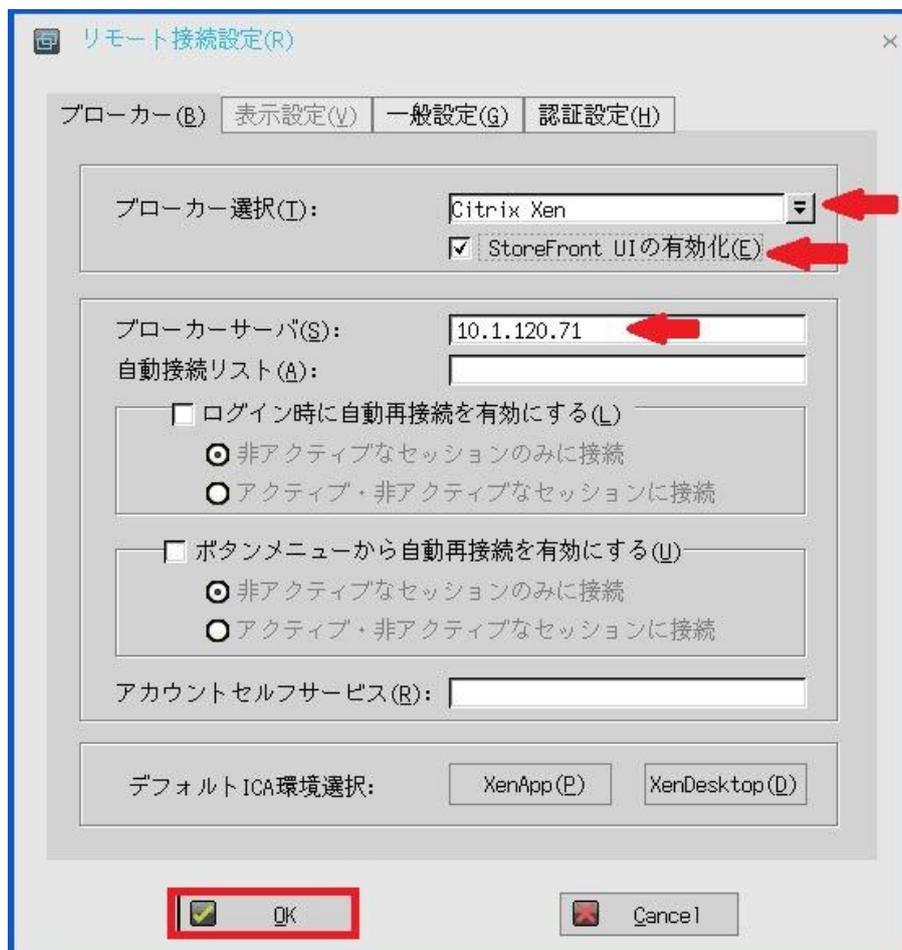


図 9 XenDesktop/XenApp への接続設定

- ブローカー選択 : Citrix Xen を選択する
- StoreFront UI の有効化 : チェックあり
- ブローカーサーバ : Store Front の IP アドレスもしくは FQDN 名を入力する

補足 : Store Front の XenApp Services Support もしくは Web Interface を利用する場合は以下のように設定します。(図 10)

- ブローカー選択 : Citrix Xen を選択する
- StoreFront UI の有効化 : チェックなし
- ブローカーサーバ : Store Front XenApp Services Support もしくは Web Interface の XenApp Services のフルパス (図 11 参照) を入力する。

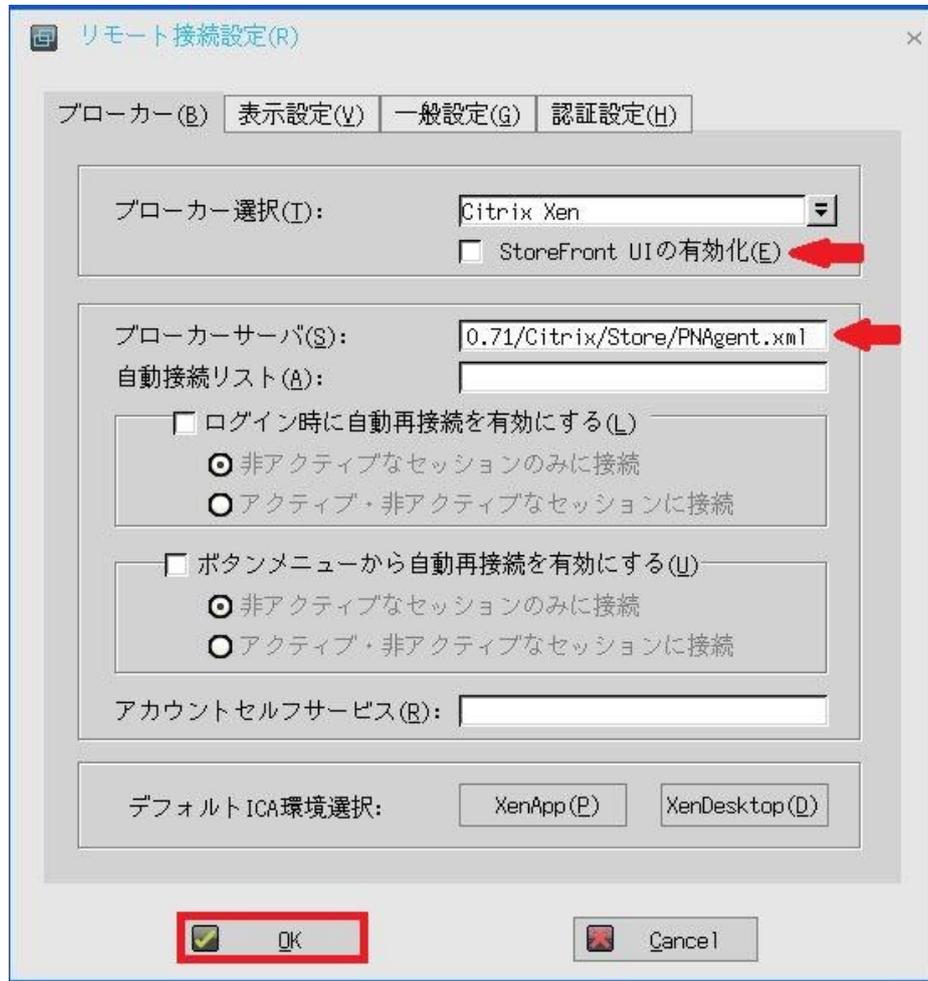


図 10 XenApp Services 利用時の設定

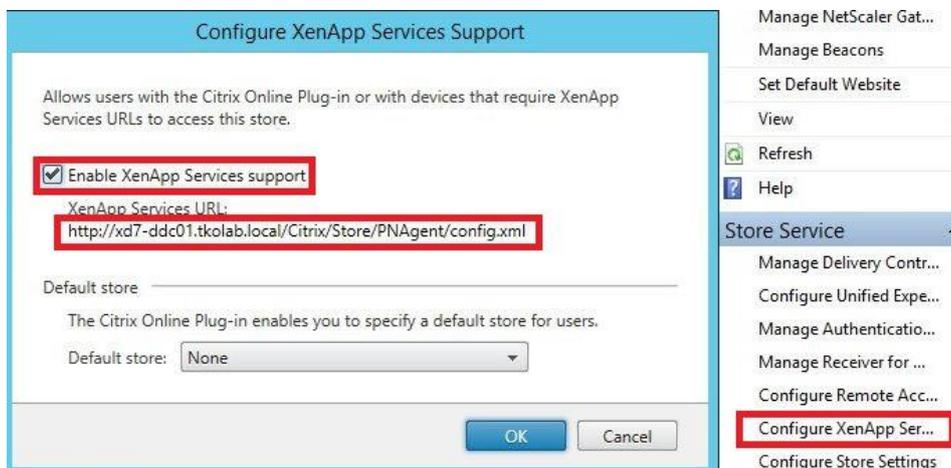


図 11 Store Front の XenApp Services Support の設定

上記の設定完了後「OK」ボタンを選択することで、WTOS が再起動されます。

WTOS 再起動後には以下のように Citrix XenDesktop/XenApp 環境へ接続するためのサインオンダイアログが表示されますので、有効なサインオン情報を入力します。(図 12 参照)

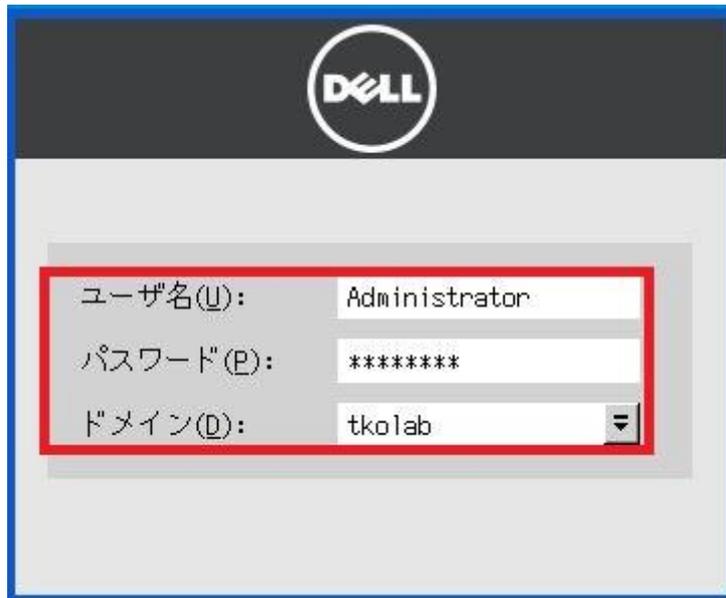


図 12 Citrix XenDesktop/XenApp サインオンダイアログ

補足 : WTOS から Citrix XenDesktop へ初期ログインユーザの場合は左側のツールバーの「Apps」アイコンからアクセス可能なアプリケーションを選択し、ローカル画面に表示させる必要があります。(図 13)

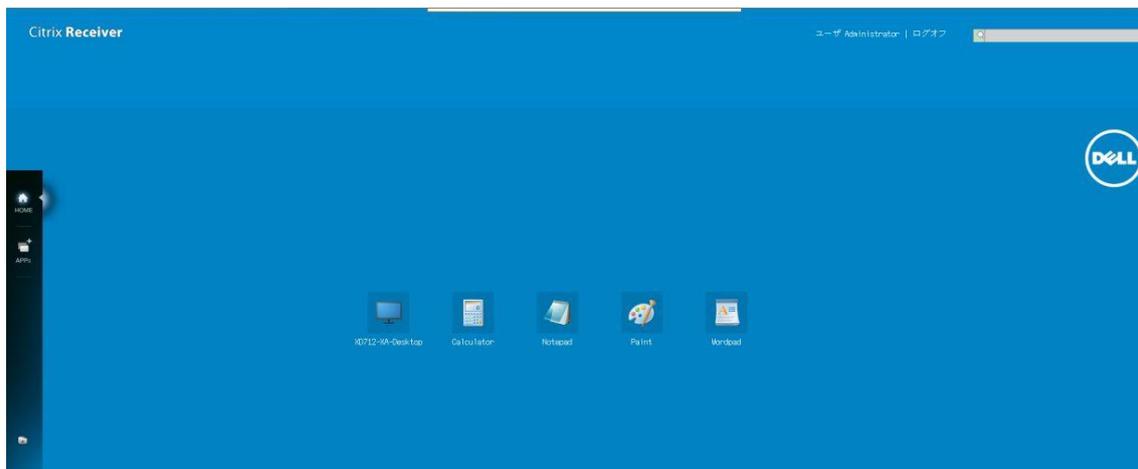


図 13 WTOS の Citrix XenDesktop/XenApp アプリケーションアイコン

4-2VMware Horizon View の場合

VMware Horizon View への接続設定を実施するため、図 8 のように「リモート接続設定(R)」を選択し、リモート接続設定のダイアログを立ち上げます。

VMware Horizon View への接続するためには図 14 のように設定を行います。

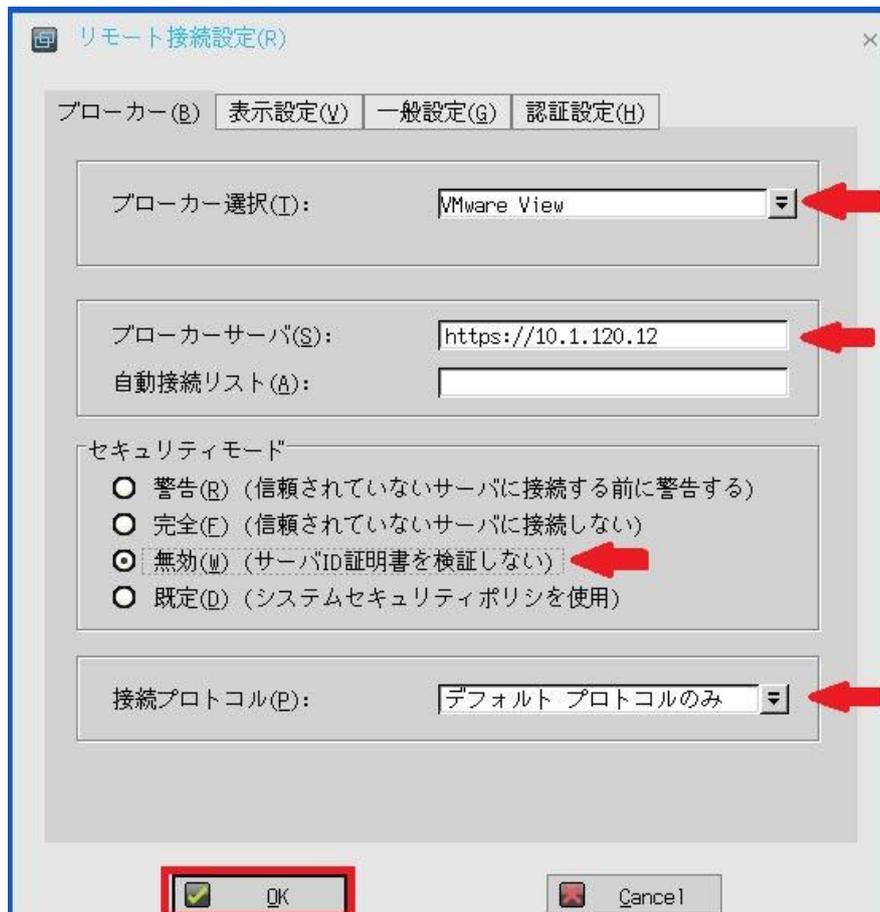


図 14 Horizon View の接続設定

- **ブローカー選択** : VMware View を選択する
- **ブローカーサーバ** : 接続サーバの IP アドレスもしくは FQDN 名を入力する
- **セキュリティモード** : 無効 (W) (サーバ ID 証明書を検証しない) を選択する^注
- **接続プロトコル** : デフォルトプロトコルのみを選択する。

注:初回利用時や効果的なデモ/テスト環境を短時間で構成するためにセキュリティモードを「無効」に設定しております。実際の運用にあっては、ご利用の環境に適した設定を行うようお願いします。

上記の設定完了後「OK」ボタンを選択することで、WTOS が再起動されます。

WTOS 再起動後には以下のように VMware Horizon View 環境へ接続するためのサインオンダイアログが表示されますので、有効なサインオン情報を入力します。(図 15 参照)



図 15 VMware Horizon View サインオンダイアログ

補足： デスクトッププールのプロトコル設定により表示されるデスクトッププールアイコンが異なります。(図 13)



図 16 VMware Horizon View デスクトッププールアイコン

4-3. Microsoft Remote Desktop Service の場合

Microsoft Remote Desktop Service への接続設定を実施するため、図 8 のように「リモート接続設定(R)」を選択し、リモート接続設定のダイアログを立ち上げます。

Microsoft Remote Desktop Service への接続するためには図 17 のように設定を行います。



図 17 Microsoft Remote Desktop Service の接続設定

- **ブローカー選択** : Microsoft を選択する
- **ブローカーサーバ** : RD 接続ブローカーサーバの IP アドレスもしくは FQDN 名を入力する

上記の設定完了後「OK」ボタンを選択することで、WTOS が再起動されます。

WTOS 再起動後には以下のように Microsoft Remote Desktop Service 環境へ接続するためのサインオンダイアログが表示されますので、有効なサインオン情報を入力します。**注** (図 18 参照)

注 : WTOS の仕様上 RDS 環境へ接続するためには証明書登録が必須となっております。証明書登録するための詳細情報につきましては捕捉の「Microsoft Remote Desktop Service 接続するための証明書登録について」をご参照ください。



図 18 Microsoft サインオンダイアログ

以下の WTOS 画面は Microsoft Remote Desktop Service のセッションホストの Remote App としてワードパッドを実行した画面となります。(図 19 参照)

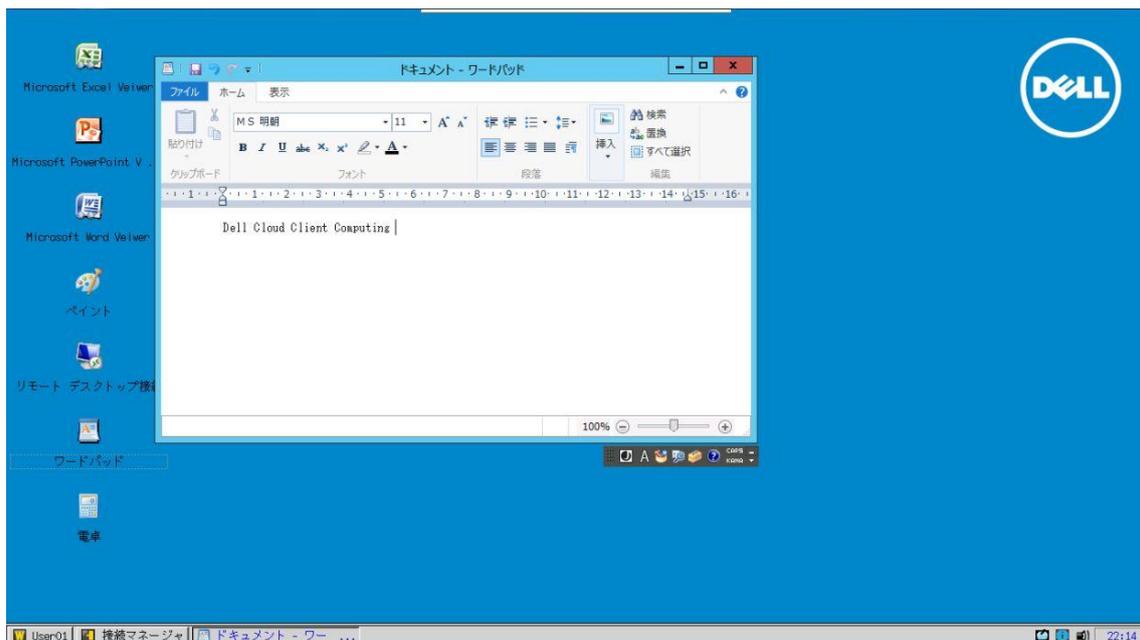


図 19 WTOS の Microsoft Remote Desktop Service のアプリケーション

補足 : Microsoft Remote Desktop Service 接続するための証明書登録について

こちらの設定では初回利用時や効果的なデモ/テスト環境を短時間で構成するために RDS 環境の RD Web のデフォルト証明書をエクスポートし設定を行っております。実際の運用にあっては、最適な設定を行うようにお願いします。(図 20 参照)



図 20 Microsoft RD Web の証明書

一般の Fat PC からウェブブラウザを利用し、RD Web の証明書をエクスポートします。エクスポートした証明書の拡張子を.cer (デフォルト) から.crt に変更し、Fat32 形式の USB に保存します。

エクスポートした RD Web の証明書を登録するため、証明書を保存した USB を WTOS 端末の USB ポートに差し込み、図 21 のように「システム診断(B)」を選択し「証明書」タブに移動します。

「ソース (F)」項目から USB メモリを選択し「登録 (M)」ボタンをクリックすることで、上記で保存した証明書ファイルの登録が可能です。(図 21 参照)

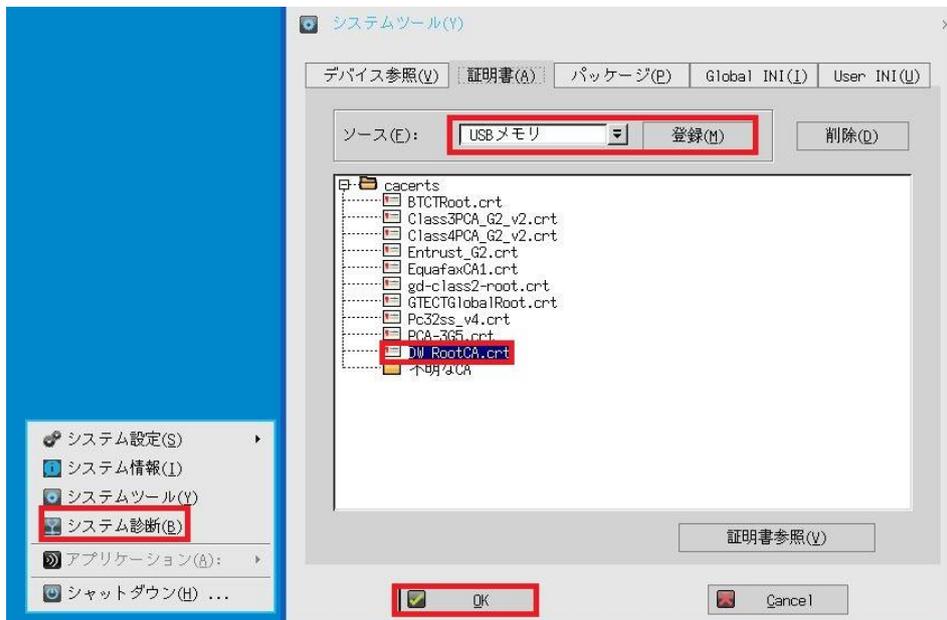


図 21 WTOS の証明書登録画面

5.端末の初期化

WTOS のすべての設定をリセットして、工場出荷状態に戻す手順について説明します。

WTOS のデスクトップ画面上を左クリックして、「シャットダウン」をクリックすることで、図 22 のように WTOS のシャットダウンダイアログが表示されます。



図 22WTOS のシャットダウン画面

「システムを出荷状態にリセット」のチェックボックスをオンにした後、「システムのシャットダウン」を選択します。

以上